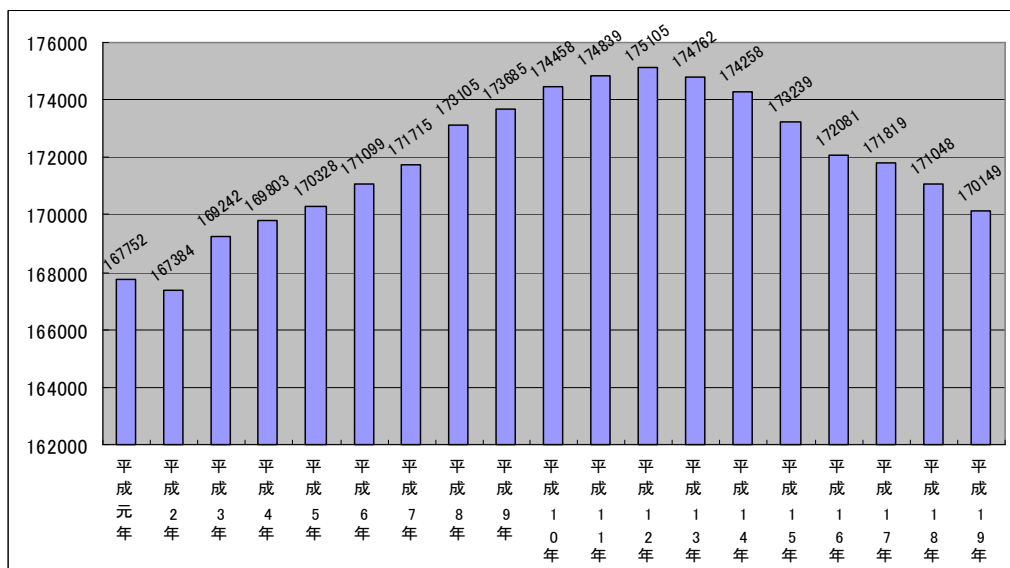


帯広市の人口の推移



年号	人口
平成元年	167752
平成2年	167384
平成3年	169242
平成4年	169803
平成5年	170328
平成6年	171099
平成7年	171715
平成8年	173105
平成9年	173685
平成10年	174458
平成11年	174,839
平成12年	175,105
平成13年	174,762
平成14年	174,258
平成15年	173,239
平成16年	172,081
平成17年	171,819
平成18年	171,048
平成19年	170,149

帯広市の人口は、大正9年第1回国勢調査人口で帯広町16,081人、大正村11,362人。昭和8年帯広町が市制施行により帯広市になる。昭和10年、第4回国勢調査では、帯広市35,696人、大正村・川西村併せて20,456人、十勝は215,536人となる。

昭和22年、戦後の臨時国勢調査で帯広市46,774人、大正・川西村15,138人、十勝259,663人。

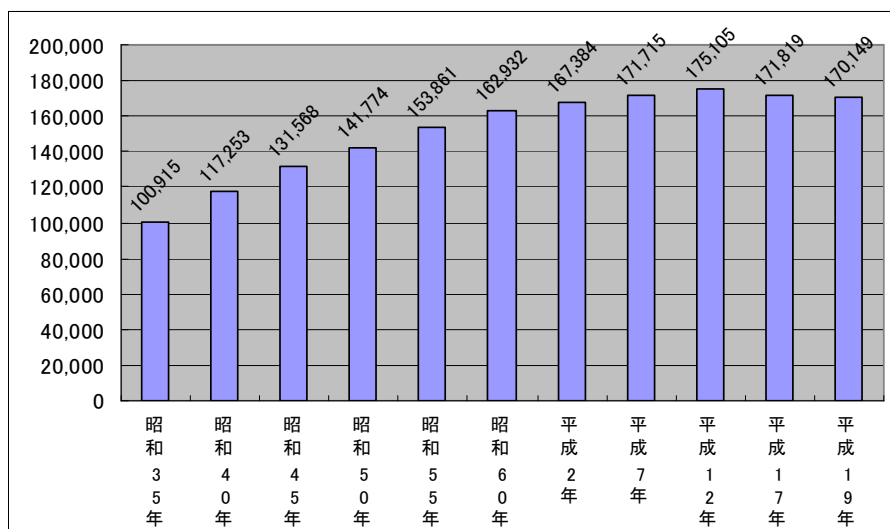
その後も急速に人口が増加し、昭和30年の国勢調査で帯広市70,027人、大正・川西村22,415人、十勝342,953人となる。

昭和32年、帯広市・大正村・川西村が合併し、昭和35年の国勢調査ではじめて帯広市の人口が10万人を超え、100,915人になる。

昭和35年	100,915
昭和40年	117,253
昭和45年	131,568
昭和50年	141,774
昭和55年	153,861
昭和60年	162,932
平成2年	167,384
平成7年	171,715
平成12年	175,105
平成17年	171,819
平成19年	170,149

自然増により人口は増え続け、平成12年175,105人をピークに減少傾向に変化する。主な要因は、陸上自衛隊第5師団が旅団化に決まり、規模縮小により大きく減少する。

その後は自然増にも陰りが見え、社会増になる施策もなく、平成20年、ついに帯広市の人口は168,970人で、17万人を割ることになる。



帯広市の世帯数の推移

平成元年、帯広市の人口 167,752 人、世帯数 60,740 世帯。以降、人口、世帯数共に増え続ける。

平成 12 年、人口は 175,105 人をピークに減少していくが、世帯数は減ることなく依然として増え続ける。

平成 20 年、人口は 168,970 人まで落ち込み 17 万人の大台を越えて減少する一方、世帯数は 79,726 世帯と平成元年から落ち込むことなく増え続けている。

人口が減っても世帯数が増えるというのは、1 世帯当たりの住人が少なく、親子それぞれが家を持つなど、核家族化の傾向が強くなってきているためだと思われる。

このことは、住宅地を提供するなどのために、市街化区域が広がっている帯広市の都市計画につながっている。

広い土地を少ない人口で利用するのは、住人サービスを提供する上で社会負担が増大し、帯広市の財政にとって大きな負担となりかねない。

25～26 年後の 2035 年には、統計から判断し、帯広市の人口が 133,894 人まで減少するのではとされているので、要注意。

年号	人口	世帯数
平成元年	167,752	60,740
平成 2 年	167,384	60,431
平成 3 年	169,242	63,150
平成 4 年	169,803	64,327
平成 5 年	170,328	65,435
平成 6 年	171,099	66,722
平成 7 年	171,715	66,687
平成 8 年	173,105	70,256
平成 9 年	173,685	72,021
平成 10 年	174,458	73,762
平成 11 年	174,839	74,736
平成 12 年	175,105	75,652
平成 13 年	174,762	76,464
平成 14 年	174,258	76,974
平成 15 年	173,239	77,343
平成 16 年	172,081	77,519
平成 17 年	171,819	78,249
平成 18 年	171,048	79,025
平成 19 年	170,149	79,478
平成 20 年	168,970	79,726

